

ただいま発掘中！

巣鴨町家の発掘調査

第1号 2010年8月4日

今回発掘調査を実施している場所は、巣鴨遺跡の範囲内に位置しております。巣鴨遺跡からは、旧石器時代から江戸時代までの遺構・遺物が確認されています。その中で、特に江戸時代の「巣鴨町」の痕跡がよく残る遺跡なのです。

巣鴨町は江戸時代に中山道（現地蔵通り～白山通り）に沿って細長く発達した町です。巣鴨町を見てみると、板橋方面から上組・上中組・下中組・下組の大きく4つに分かれ、これらの中央付近には江戸六地蔵尊のひとつがある真性寺があります。

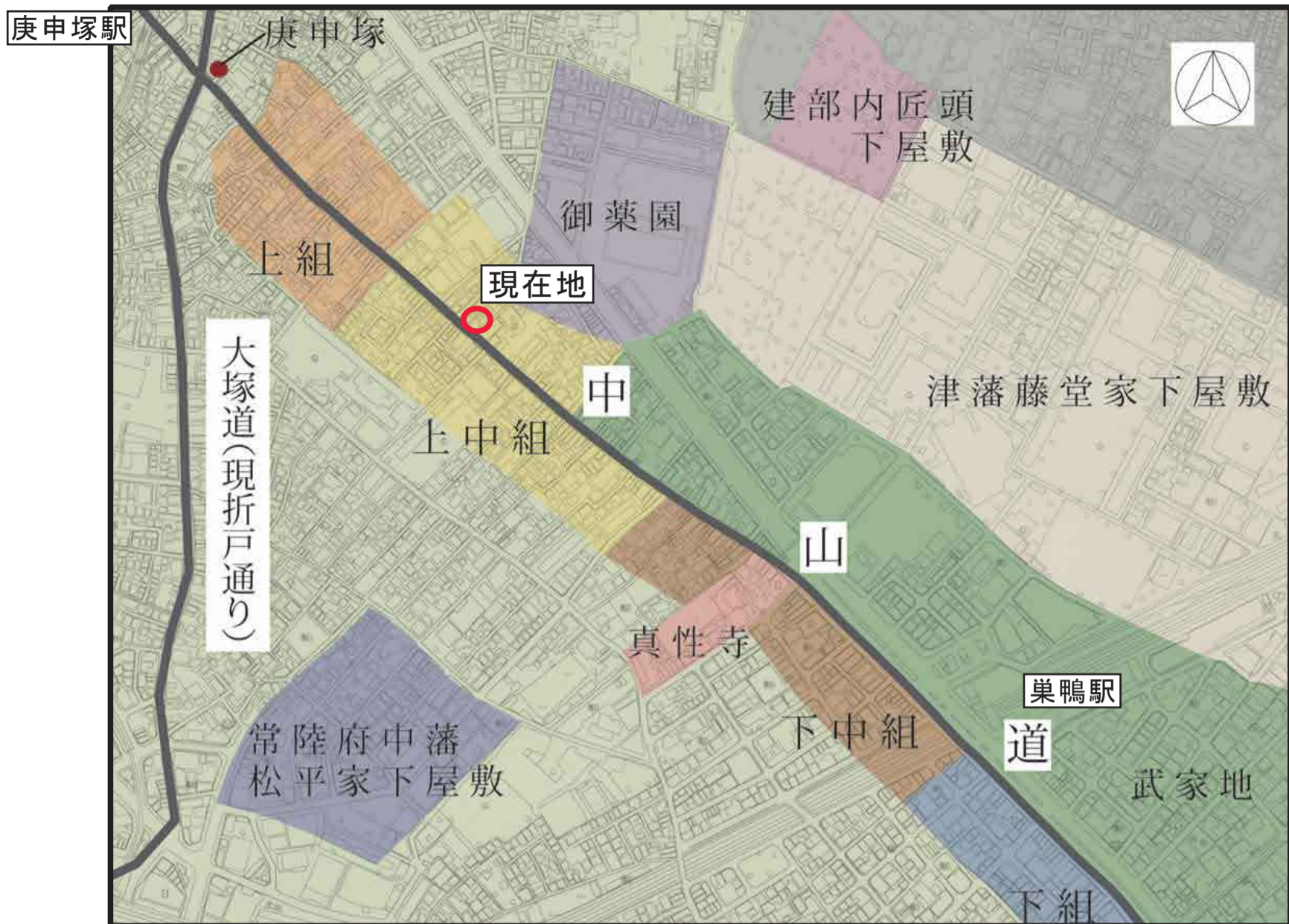
今から150年前の江戸時代後半頃、世間では坂本龍馬が活躍していた時代の生活面を現在調査中です。この面では、石を据えた建物の基礎（土台）の一部が発見されました。基礎を頑丈にするために石を詰める事は当然で、瓦や植木鉢・焙烙ほうろくの破片も意図的に使われていました。壊れた物を棄てずに再利用する。「エコ」な発想と言えます。このほか、小さな穴も複数見つかっています。柱の跡の可能性もあります。

発掘調査では、有田（佐賀県）と瀬戸（愛知県）で焼かれた碗や皿などが出土しています。

発掘調査は始まったばかりですので、紹介できるのは以上です。次回の発掘調査速報は、幕末期やそれよりも古い時期の町家の状況をお伝えできるかと思えます。

発掘調査地：豊島区巣鴨 4-23-1（住居表示）

特定非営利活動法人
としま遺跡調査会



↑ 嘉永5(1852)年の巢鴨町周辺と現在地比定
 巢鴨町は、4つの組(上組・上中組・下中組・下組)で構成された町です。現在高岩寺が位置する辺りから巢鴨駅方面にかけては、片側が大名屋敷などの武家地となっていました。



← 建物基礎(土台)の一部(幕末頃)
 大きめの石の周りを囲うように小さな礫や瓦片が敷き詰められています。



徳利が出土した状況
 「スガモ」の文字が書かれた德利。巢鴨遺跡では、このような徳利がたくさん出土します。



発掘現場の調査風景